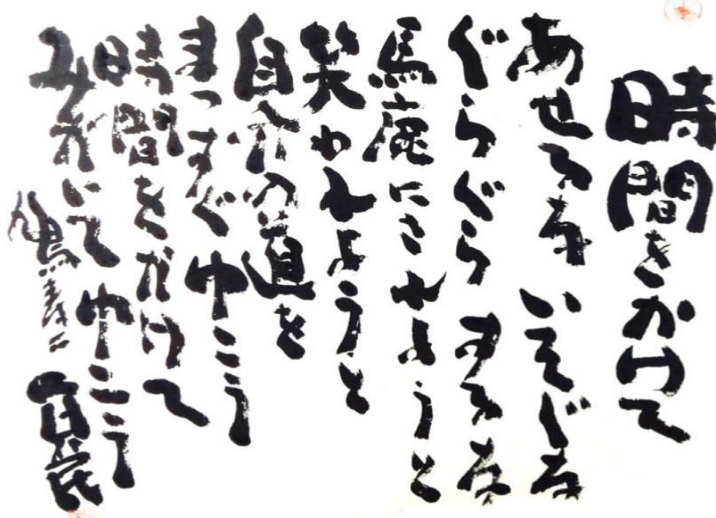




笑う門には 福来たる

(株)日本交通社
発行人 光田秀之
☎089-946-3911



企画展 つみかさねること

「真民さんからのメッセージ」

令和7年7月5日～10月5日

坂村真民記念館(砥部町)

明朗・愛和・喜働

柿の木

かつて日本では、家屋のそばに必ずと言っていいほど柿の木が植えられていました。たわわに実った柿が色づく様子は、日本人にとってどこか懐かしい原風景の一つではないでしょうか。

そして秋の深まりとともに、赤く色づいた実が枝いっぱい垂れ下がり、収穫を待っているかのようです。

柿は秋の季語として多くの俳人に愛されてきました。その中でも、柿を詠んだ俳句でよく知られているのは、明治時代の俳人・正岡子規の次の一句です。

柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺

柿好きの子規が旅先の奈良で柿を食べているとき、ちょうど法隆寺の鐘の音が響いてきて感動し、この句が生まれました。この俳句は難しい言葉や表現を使わず、読み手にも音や色が感じられ、情景が鮮やかに浮かび上がります。

忙しい毎日の中で、私たちは感動した瞬間を忘れてしまいがちです。

だからこそ、心が動いた一瞬を、美しい日本語で表現してみたいかがでしょうか。

◆心の動きを表現しましょう

「職場の教養」より

竹富島(沖縄県竹富町)

那覇市から400km以上離れた八重山諸島の一つで、沖縄の原風景を色濃く残す。赤瓦屋根の古民家が並び、白砂の小道にはブーゲンビリアやハイビスカスが咲き誇る。集落はサンゴ石を積み上げた石垣「グック」に囲まれ島の風土に根ざした暮らしが息づいている。水牛車に揺られながらガイドが唄う沖縄民謡「安里屋ユンタ」に耳を傾けるひとときは、極上の心地よさ。あかやま展望台からは、街並みの先にエメラルドグリーンの海を望みます。



日本再発見!



監視カメラを睨み返してATM

やぎけん

今朝も、心は晴れている

「今日もきっといいことがある」そう信じて一日を始めよう。明るい気持ちで、好機を呼び込む。

